

「日本金融史における特殊銀行の役割とその展望」

1879－2021

東野 隼空

【要旨】

序章にて、特殊銀行の概要や現在の普通銀行がどのような役割や目的を持ち営業しているのかを研究した。加えて、普通銀行の中での分類についても検討し、信用金庫などの機関が、銀行とどのように違うのかなども触れた。また、現在の銀行の業務について検討することで、過去の特殊銀行の役割や目的との比較が明確に解明した。その比較や検討を行なうことで、1880年代から2021年にかけて、銀行の役割がどのように移り変わっていったのかをまとめ、特殊銀行がそう呼ばれた特殊性についても検討した。

第1章では、日本の国際関係を支えた横浜正金銀行と、中央銀行として国内の金融基盤に関係している日本銀行の2行を扱う。第2章では、現在のメガバンクであるみずほ銀行の前身にあたる、日本勧業銀行や日本興業銀行がどのような経緯で統合したのか、北海道拓殖銀行の破綻の問題なども、文献を利用しながら検討していく。第3章では台湾銀行と朝鮮銀行を取り扱い、植民地での銀行営業が及ぼした影響を検討した。これらを研究することで、各特殊銀行について詳細に調べることができた。

結論として、文献を利用し、ネット銀行などの新たな形態の銀行などについても検討し、さらに比較や考察をした。そのなかで、銀行の役割の移り変わりなどに着目した。さらに、時代背景等の要因が発見できるのならば、現在も世界で猛威を振るう新型コロナウイルス(COVID-19)の影響等もあり、先行きが不透明な金融情勢においての、今後の銀行の在り方なども検討したのである。

【講評】

本論文の形式については、細部において、学部が定める形式と異なる点も見受けられるものの、論文の形式については、引用方法、脚注、参考文献の記載方法等において複数の方法があり、また、それは分野によっても異なるものと言え、指導教授の適切な指導の下で執筆された論文であることから、特段の問題はない。

本論文は、明治中期から令和現在に至るまでの特殊銀行の役割変化およびその展望を検討したものである。特に注目すべきは、特殊銀行の概要や現在の普通銀行がそのような役割や目的を果たしてきたのかを調査し、現在の銀行業務を考察することにより、過去の特殊銀行の役割や目的との比較を通じてその差異を解明した点である。

本論文は、論理的に矛盾のない構成となっており、結論において、ネット銀行などの新たな形態の銀行等についても検討を加え、そのなかで、銀行の役割の移り変わりに着目した点が高く評価できる。さらに、時代背景等の要因に関連づけ、世界で流行している新型コロナウイルス(COVID-19)の影響により、先行きが不透明となっている金融情勢における今後の銀行のあるべき姿についても考察がなされ、優秀卒業論文に値するものと評価できる。本論文は、丁寧な執筆と推敲の跡が見て取れ、執筆者の長期間にわたる地道な研究と担当教授による熱心な指導の賜であり、その点にも敬意を表するものである。